

ホットニュース Hot News

◎雑誌コーナーに広告を掲載しませんか？

雑誌の購入代金相当額を負担することで、企業・商店・団体などのPRができます。

▶ 募集期間＝2月4日(火)～2月28日(金)

▶ 掲載期間＝4月～令和8年3月の1年間

▶ 広告1枠の規格＝

①カバー表面(縦7cm×横14cm)、②カバー裏面(A4サイズ未満※雑誌の大きさによる)、③雑誌架(縦15cm×横21cm)



▶ 設置場所＝各図書館雑誌コーナー

▶ 申込方法＝申込書に必要書類を添付の上、中央図書館に直接または郵送にて／希望する雑誌は、図書館が提示する雑誌リストから選定

申込書や必要書類など詳しくはこちら▶



オスナの本



『わかったさんのスイートポテト』

永井郁子/作絵 あかね書房

「わかったさん」シリーズ33年ぶりの新作が登場。不思議な世界でお菓子作りに奮闘するわかったさんと冒険へ出発！



『ナイフみたいにこがってら』

月野まる/著 KADOKAWA

小さくてかわいかったのは遠い過去。気づけば思春期真っ只中の子どもたち。イライラしつつ時にほんわかできるコミック。

History Inquiry Club 其の246 歴史探訪クラブ

文化財課(博物館) ☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127



博物館HP 博物館Instagram

炭火の熱を使ったアイロン

アイロンは熱と重さを利用して衣服のしわなどを取る道具です。現在のアイロンは電気です熱を取りますが、古くは炭火だったことを皆さんはご存知でしょうか。炭火と言えばバーベキューや焼肉店を思い浮かべる方が多いと思いますが、長く熱を保つこと、炎が上がりにくいなどの特徴から、アイロンの熱源にも適していたのです。

右の写真は「火のし」と呼ばれる道具で、金属の器に炭火を入れ、熱された金属を衣類に押し当てて使用します。火のしは



▲火のし

2000年以上前の中国の遺跡や日本でも古墳の副葬品として発見されている非常に歴史の古い道具で、日本でも昭和初めまで広く使われました。

ただし火を保つには酸素が必要なため、金属の容

器にふたが付けられず、木炭の破片が飛び出して衣類を焦がす危険がありました。この問題を解決するために、明治時代にイギリスから入ってきたのが、炭火アイロンです。炭火アイロンは上部にふたをしながら空気の通り道を確認している便利な作りから、徐々に火のしに代わる存在となりました。そして、戦後になり家庭の電化が進むと、電気ですアイロン内の水を熱して使用する、現在のスチームアイロンが普及し、ドライアイロンとともに現在でも使われています。



▲炭火アイロン

現在、博物館では、渥美半島の家庭で使用されていた火のしや炭火アイロンのほか、炭火を利用した火鉢、手あぶりなどの少し昔の暖房器具を展示しています。炭火のある昔の生活をイメージしながら、ぜひ実物をご覧ください。(学芸員 木村洋介)